



# 沖津宮現地大祭

## 晴天の中、約二五〇名が渡島参拝

初夏の潮香る五月二十七日、年に一度一般参拝者の渡島が許される沖津宮現地大祭が斎行された。

三月下旬より、全国から申し込みをされた方々の中から、厳正に選定された約二五〇名の参拝者は、前日の二十六日に筑前大島に参集。同島の沖津宮社務所で受付を済ませ、午後六時から斎行された沖津宮渡島安全祈願祭に参列し、無事の渡島が祈念された。

祭典終了後、神島宮

司より明日の大祭斎行の意義、葦津禰宜からは渡航に際しての総括説明が行われた。その後参拝者は八班に分かれ、担当神職よりの諸注意があり一同解散、各自大島の宿泊施設に参籠した。

当日は昨年と違い晴天に恵まれ、参列者は午前七時三十分大島渡船「しおかぜ」、海



### 7月祭事暦

- 毎月1・15日 つきなみ 月次祭
  - 午前10時～
    - 高宮祭
    - 第二宮・第三宮祭
    - 引き続き
    - 宗像護国神社
    - 月命日祭(1日)
    - 巡 拜(15日)
  - 午前11時～
    - 総社祭
    - 浦安舞奉奏(1日)
    - 豊栄舞奉奏(15日)
- 24日 中津宮七夕揮毫会
  - 午前9時
  - 於＝筑前大島 中津宮
- 31日 夏越の大祓神事
  - 午後5時～大祓式
  - 於＝神門前
  - 引き続き夏越祭
  - 於＝本殿



今、完熟マンゴーが熱い▼地鶏と言えば、これまで薩摩地鶏がその代名詞で宮崎産は二番手と見られがちであった。それが、現知事就任直後に鳥インフルエンザが県下に猛威を振るったにも関わらず、その情報開示と説明努力により宮崎最強の観光物産に甦った。その第二段が、知事自ら広告塔となり連日テレビで流される例の完熟マンゴーである▼同知事といえば、保守王国宮崎でまさかのタレント候補からの当選として、全国から強烈な注目を受けている。その評価も様々だが就任以来の歩みを振り返れば以外に手堅く厚みがあり、着実な改革ぶりとも捉えられている▼その最たる所が観光重視だ。かつて宮崎は新婚旅行のメッカで南国やフェニックスを売り手にしてきたが、今や海外旅行も手軽に出来る時代となり風化著しく、その再建が緊急課題とされていた。それを「日本発祥の地を国内外に発信する。宮崎は神話・伝統・歴史、これ一本でいく。」と就任一ヶ月後に表明し大転換を進めている▼福岡は九州の中心地として自負し、経済も他県より恵まれている。それ故に歴史的な史跡地への観光開発は、後進地域だとも言える。この物産と歴史的遺産とを連動させていく宮崎の活力を我々も見習わねばならない。

(D.S)

神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31  
電話 福岡(092)651-9456番

本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入  
電話 (075)341-3341(代)～4番  
(075)343-3341番

井筒

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567

上タクシー「第二宝栄丸」、チヤーター船の「恵比寿丸」「恵比寿丸II」「アクアシャイン」の各船に乗船。家族、沖・中両宮奉賛会、同翼賛会をはじめとした大島島民の見送り受けながら出港、一路沖ノ島を指した。



午前九時十五分頃、全船沖ノ島に到着、一同直ちに海中にて禊を行い、心身共に清め、沖津宮御祭神「田心姫神」の鎮まる御本殿へと原生林の生い茂る四百段に及ぶ参道を進んだ。

家・皇室の安泰、そして日本海々戦で命をかけて戦った日露両国の兵士を讃え・世界平和を祈る祝詞を奏上。続いて宮司以下各代表者が順次玉串を捧げて、敬虔な祈りの中祭典は滞りなく終了した。

その後、波止場で沖・中両宮奉賛会、同翼賛会の皆様により調理された刺身・煮魚、その煮汁でいただくソーメンに一同舌鼓を打ちながら、神の島の一時を過ごした。

正午過ぎ、参拝者は各船に乗り込み沖ノ島を出港、ゆつくりと島を一周し午後二時過ぎには全船大島に到着、参拝者はその場で解散となりそれ



前日の受付



到着された方より順次行われた海中での禊

それ帰路についた。

一方、沖ノ島に渡島出来ない女性・子供は、沖津宮祭典と同時に斎行された、大島の「沖津宮遥拝所」での祭典に参列し、遙か沖ノ島に祈りを捧げた。



吉村作治先生は本年も参拝



中津宮での渡島安全祈願祭



緊急時に備え準備する同行医師

# 神宝館で展示替え実施

宗像大社神宝館では、平成十五年十月に常設展示のリニューアルをはかつて以降、年に二回から半年を経た、去る六月十二



展示替え作業の完了した神宝館内

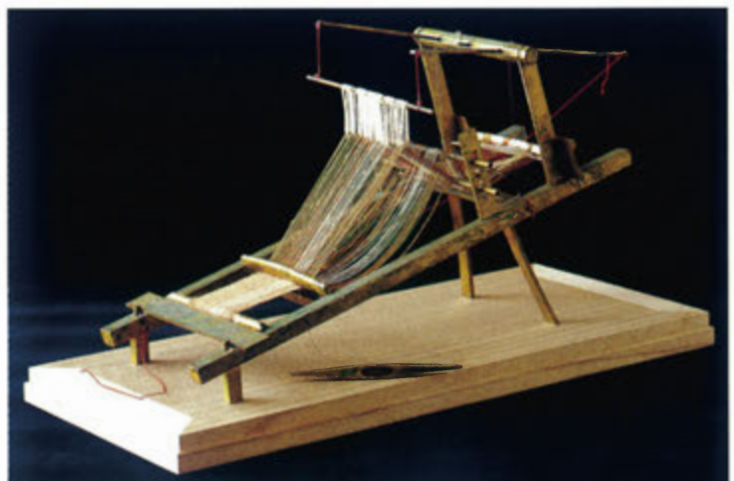
十四日の三日間休館し、展示替え作業を実施しました。当館では、当大社に関わる文物を通史的にご紹介しており、そこには、宗像三女神とその神を奉斎した宗像(胸形)一族の長い歴史が集約されています。

当大社の神体島沖ノ島を崇め、やがて沖ノ島・大島・田島に宗像三女神を祀り、宗像地域を本拠とする古代の有力首長に成長した胸形一族は、中世以降も在地領主、宗像大宮司家として地域を統率していきまし。また、祭政一致を行う中、独自の優れた航海術を活かして中国や朝鮮半島と私的交渉を行い、一族に大きな繁栄をもたらしました。

戦国時代に嫡流が途絶えて宗像大宮司家は断絶しましたが、江戸時代も黒田家の崇敬、保護を受け、その後も宗像三女神への信仰や祭祀は連綿と続き今に至っています。宗像三女神の御神威を反映する御神宝、中世以降の一族の動向がうかがえる文書や美術工芸品などから、当大社の由緒深さを紐解く展示となっております。皆様是非、ご来館下さい。

## 各テーマと主な展示品

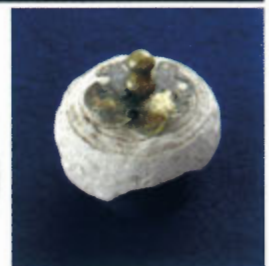
1. 宗像三女神の誕生
  2. 宗像一族の海外交渉
    - 宋風狛犬
    - 阿弥陀経石
  3. 宗像一族の誕生と国家祭祀
    - 沖ノ島祭祀遺跡出土品
      - ◎ 金銅香炉状製品(平成19年6月19日より)
      - ◎ 金銅雛形五弦琴
      - ◎ 金銅高機
  4. 中世の宗像社
    - 宗像大社文書(テーマ「社殿の造営」)
  5. 近世の田島宮
    - 三十六歌仙扁額
  6. 辺津宮社殿の造営記録
    - 辺津宮本殿置札
  7. 宗像郷土資料(寄託品)
    - 色定法師一筆一切経
- ※◎は国宝、○重要文化財を指します。  
 ※1階展示室には拝観時間の限られた方のために古代から中世までのダイジェスト展示を設けています。



金銅高機



金銅香炉状製品



貝雲珠

# 九州国立博物館沖ノ島祭祀コーナー

## —— 第四期展示品の入れ替え作業を実施 ——



陳列品の入れ替え作業が完了した沖ノ島コーナー

開館二年目に突入した九州国立博物館(以下、九博と表す)。他の国立博物館より秀でた斬新さを活かしながら、さらなる飛躍を目指して、特別展、イベント、講演会など数多くの企画を日々展開している。

去る五月二十一日、「文化交流展示室」一角に設けられている沖ノ島祭祀遺跡出土品展示コーナーの陳列品入れ替え作業が行われた。九博開館以降、当社は半年毎に様々な沖ノ島神宝を貸出、本コーナーでヤマト政権による沖ノ島祭祀の一端を紹介してきた。今回は第四期目の展示にあたる。

九博の常設展示の舞台「文化交流展示室」は博物館の顔ともいふべきところであり、本来は館

蔵品を一同に並べて館の特色を明示する場であるが、収蔵品の乏しい同館は方々の所蔵品を頼り借用して展示を実施している。具体的には、展示の柱となる各テーマの括りにおいて主要となるものをしばしば入れ替え、

展示の主眼を細やかに移しながら、内容の更新をはかる方策をとっているようである。このような状況は一見すると、博物館運営においてデメリットとなるように思えるが、来館する度に化する展示は観覧者にとっても新鮮な情報、空間を提供できる。ここに九博の発展の可能性が秘められているかもしれない。

新たな陳列品の内容は、ヤマト政権の動向を示唆する三角縁神獣鏡、鉄鋌(鉄の素材)、

車輪石、朝鮮半島製の馬具、七色の煌めきが美しい有孔貝製品、様々な形状の土器、鏡のミニチュアといわれる滑石大形円板など、計三十三点。これまでに引き続き、韓国竹幕洞祭祀遺跡出土品と併せて紹介されている。

今期の出陳期間は、五月下旬から十月下旬までの予定。今までに無く、内容が多岐に及んだ面白い展示となっており、沖ノ島神宝の特徴である内容の豊富さ、神道固有の祭祀奉獻品のあり方、対外交渉の反映の様子などが凝縮されている。沖ノ島の荘厳さを象徴する品々を是非ご覧頂きたい。



▲金銅杏葉付辻金具



▲金銅絞具状杏葉



▲滑石子持勾玉



▲車輪石・右銅

# 氏子会総代総会 安部照生会長、続投

五月二十一日、今年度第一回目の氏子会総代総会が、安部会長以下一〇八名出席の下清明殿で開催された。

神宮並皇居遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を唱和し、会長・宮司挨拶の後、来賓挨拶として渡辺具能国土交通副大臣

の佐伯秘書より挨拶を賜わり議事へと入った。

安部会長が議長に選出され、議事の審議に入り、事務局より平成十八年度氏子会事業報告また決算報告がなされ、古屋敷監事より会計監査を行



つたうえで決算報告に相違がないことが述べられ、全会一致で承認された。次に平成十九年度氏子会事業計画案・予算案について事務局より説明され、こちらも全会一致にて承認された。

次いで、本年は任期三年の役員改選の年となっており、先に行われた評議員会において推挙された方々の紹介が事務局よりされ、全会一致で承認された。次に、氏子会組織の由来について事務局より説明させて頂き、氏子会費取纏めについて総代皆様にご理解とご協力をお願いがなされた。



最後に、本年度より総代・評議員に新たに就任頂いた方々への委嘱状伝達式が行われ、該当者を代表して田島地区牟田尻の清水熊雄評議員に宮司より委嘱状が渡され、佐藤前副会長の閉式により総会は閉

## 氏子青年会 総会開催

六月三日宗像大社氏子青年会総会が、当大社斎館において開催された。

会した。本年度より新たに就任頂きました新役員、総代・評議員の皆様には今後の大社の諸行事・祭典等へのご協力をお願い申し上げますと共に、引き続き総代・評議員をお引受け頂いた方々にも更なるお力添えをお願い申し上げます。

新役員は下記の通り

会長	安部 照生(宗像市河東)
副会長	古賀 理(宗像市大島)
"	村田 政夫(宗像市鐘崎)
"	大嶋 和敏(福津市東福間)
"	石橋 定雄(福津市津屋崎)
監事	古屋敷清文(宗像市東郷)
"	城野 寅夫(福津市駅東)
"	松井 善徳(宗像市吉田)
"	永島 繁美(福津市勝浦)

総会は、小林栄二会長を議長に選出し、議事審議に入り事務局より平成十八年度事業・決算報告並びに吉武倫彦監事より決算監査報告が行われ、全員一致で承認された。引き続き平成十九年度事業計画案・予算案の説明が事務局より行われ、こちらも全員一致で承認された。次に新会員の紹介が行われ、総会は滞り無く終了した。

神郡宗像の氏子若手の青雲の志を受けて結成された宗像大社氏子青年会も今年で三年目を迎えた。創立当初、その全てが新規事業で難渋する事も度々であったが、青年ならではの機動力を発揮し、諸祭典・諸行事において迅速果断に活動を拡げている。

# 奨学金便り

筑紫高等学校 三年 佐々木 美奈 (第四十六期生)

私は、バレーボール部に入っています。インターハイ予選まで一週間を切り、私達三年は貴重な時間を大切に、今追い込みをしているところです。

学区外受験をして、不安な気持ちで押しつぶされそうなお中、高校に入学し、中学からしていたバレー部に入ることに決めました。今まで約二年間高校で部活を頑張ってきた、本当によかったと思います。まずは、なによりかけがえのない「友達」に出会えたこと。これは部活だけではありませんが、今まで高校生活を送ってきた中で多くの友達に助けられました。特に部活の友達とはより多くの苦しいことや楽しいこと、喜びや悔しさも味わってきた、励まされたことが幾度とありました。そんな友達なしでは今の自分はありません。これから受験に切り替わっても、高校を卒業しても、互いに心の癒しとなる友達でいたいと思います。

そして、部活をすることで、日々充実した生活を送ることができました。時間を考え部活生ということを感じること、勉強も頑張ろうという意識も自然と出てきました。また、私は運動部なので、体力も精神力もついたと思います。多少の苦しさにも負けないようなねほり強さもついたのではと思います。これらは全て、仲間と共に、「楽」だけでなく「苦」を経験してきたから身についたものだと思います。先週行われた九州大会予選では、私の高校のバレー部で初の好成績を残せました。しかし、その結果に満足することなく、次の試合で、今までの努力を全て出しきりたいと思います。そして、さらによい結果を残します。

そして、この奨学金を自分が受けている意味を再び考え、次は受験に向けても精一杯取り組もうと思っています。

宗像高等学校 一年 宮本 愛 (第四十八期生)

「宗像大社は見守ってくれる存在」

緑が景色に映える中、私は久しぶりに宗像大社に訪れました。ここへ来るのは、大体一年に一度、みあれ祭の時です。私は女である以上、海上パレードに参加できないので、御神体を最後まで見送ることが叶いません。この時はやはり、男に生まれたかたと思いましたが、高校に入ってから約一ヶ月、新しい環境の中、まだ周りの変化についていけていかどうか分かりませんが、それでも、勉強に追われながら、吹奏楽部にも入り、充実した日々を送っています。今まで流れに身をまかせていた自分を変える為、眠い目をこすりながら机に向かっています。この努力がむくわれるかどうかは分かりませんが、十月の始めには宗像大社を思い出し、自分を見守ってくれている存在があることを思い出したいと思っています。

平成十九年度

# 夏越の大祓神事 御案内

恒例の夏越祭が近付いて参りました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日を無事に過ごしていただくための祈りを込めた神事でございます。

本年も左記の通り斎行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

## ◆日時

七月三十一日 午後五時

## ◆場所

大祓神事 引き続き 夏越祭斎行



## 宗像大社形代について

当大社では、古く一千数百年前から、交通安全や身体安全を祈って様々な人形・馬形・船形などがお供えされております。このことは、宗像大社が道主貴(あらゆる道に通じる最高神)として多くの人々から篤い崇敬を受けている永い歴史を物語るものであります。

(続)

# 次郎の寄物

216

いいいだし



立寄った島で、藤蔵を見かけたが「ひとこと」言葉をかけあつて別れた。沖を走ること三昼夜で、大きな島に着いた。川口から三里ばかりのぼると、ソフロク(ボルネオ島西部一帯の称)の湊に着いた。ここは五百戸ぐらいが川ぞいにあつて、風俗はカラカンとは異ならない。我々七人を連れてきた舟人

は、頭目のところに連れていかず、直に引き離して仕事をさせた。孫太郎と幸五郎の二人は、同じ船頭コロウのところで使われた。この家は表に舗を開き、陶磁器や蕉沙などを置いていた。

コロウは、毎日船を出して商つていた。載んでいるものは、芭蕉子、もろこし、蔴籐、海參(なまこの干したもの)の類であつた。



孫太郎は水手としてつれていった。行くところどころ風俗は同じであつた。ひまな時は、近辺の洲や渚へ漁に連れていく。「トアイ」という巨蟹が多きなのは、その殻だけでも一尺

ばかり、味は美味であつた。ある日、黒坊数十人が漁に出かけた。さんさんの魚を獲ってきた。網類を使わずに、みな手捕りであつた。孫太郎たちは、カラカン、ソフロクの間をおよそ一年すごした。翌年正月はじめてあつたか、コロウはパンジャルマシン(ボルネオの南はし)に貿易に出かけることになつた。舟子(かこ)およそ二十人、大あきないで、食料をたくさん積み、孫太郎ら男女三十人、(男二十二人、女八人)をのせて、南をめざして船を出した。この時金兵衛、市三郎、貞次郎、長太郎、弥吉の五人と別れた。五人はソフロクに留り、其後、音信はなかつた。

乗船した男女三十人は、出身も異なつていた。そのうちの、はげ頭の男が、手に胸を押さへて、「マニラ(フィリピン・ルソン島)と名乗つた。孫太郎も、また胸を押へて、日本と名乗り合つた。其の他の地を名のる者もあり、ここに乗船しているものは、他からつれてこられたり、捕えられてきた者達であつた。船でおよそ二十余日にして、幸五郎が病氣になり亡くなつた。島に小舟を着けるので、孫太郎は死骸を陸にあげて埋めた。黒坊たちに加勢を頼んだが、黒坊たちは唾を海にはいて、海に投げよと、とり合はない。泣く泣く孫太郎は、一人で近くの海辺に運んで、柁で砂地を掘り埋葬した。孫太郎は伊勢丸十九人(孫太郎入れて二十人)の仲間と離ればなれになつたり、死別して、いま幸五郎をなくし、とうとう一人ぼつちになつてしまつた。そのシヨックに、しばらく船中に打臥してしまつた。また病死するかも知れないと、黒坊たちも、氣づかい、食物などを与へて、介抱してくれたの



東南アジアの木彫り人形

で、次第に元氣をとり戻した。洋上で、怪異な光景を目にした。晴天にわかにかき曇り、雷雨はなはだしく起り、一むらの黒雲、海上にまい「潮水警過して、海面凹字の勢をなし」船はなはだ危い状態になつたが、黒坊たちは、たいして驚くことはなかつた。——やがて波濤も次第におさまり、もとの海に戻つた。(これは竜巻であつた)

# 第五五二回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日×切

北九州市 八幡西区 吉田 ウト子  
父の忌の法会終へたる直会なまらひに鮎あなごの味ほむ生ある者は  
時間ときは悲しみを洗い流すために存在し、生あるものは生きるために食ふ。上句のゴタゴタが気になるが、いい歌。

うきは市 浮羽町 向 則正

六百年社を巡る大藤は花房長くかすかに匂ふ

黒木の大藤を詠っているが、二句は「根を張りひろげ」がいい。匂いも相当強いのと思うがどうだろうか、少々気になる。宮終二は越中の大藤(家持ゆかりの藤)を大藤のむらさき淡き花の房幾百となく咲き垂れ匂ふと詠っている。

北九州市 戸畑区 田中 ハツセ

娘と嫁にささえられつつ坂登る夫々の墓に昔を偲びぬ

かくして代々祖先を敬いつづけてゆくのである。「坂登る」の終止形でなく「登りて」の連用形がいい。

福津市 若木台 野間 精一

大来皇女の二上山を見上ぐれば女山が男山に雨に寄り添ふ

大津皇子の屍を二上山に葬った時に、姉の大来皇女の詠んだ「うつそみの人にあるわれ明日よりは二上山を弟世とわが見む(二一「六五」)を心にした一首だろうが、結句がやや唐突、初句を省いて詠っていいのでは。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

サボテンの花の香はくれないを内につつみて咲くときを待つ

サボテンの名がはつきりすると鑑賞がまた違ってくるのに惜しい。

宗像市 田久 巻 桔梗

ほのぼのと紅つつましく咲きにけり祈願殿わきに鬱金櫻は

「ほのぼの」も「つましく」も言葉のニュアンスの似通うところが残念。

宗像市 曲 天野 玲子

初に逢う曾孫はげんな顔をして抱かるる胸より我を窺う

初めて曾孫と会った時の喜びと戸惑い「抱かるる胸より」の胸は誰の胸だろうか、はつきりしないのが気になる。

福岡市 南区 井田 有久衣

こんにもちわ三度呼べども返事なく老女は無心に庭いじりする

老女の姿はまた己の姿かも知れない。老のかなしみの姿である。

福津市 中央 池浦 千鶴子

山桜見上げる空に二筋の飛行機雲ののびにのびゆく

素直に詠われていて、素直ゆえの味わいのある歌。

宗像市 日の里 大和 美由紀

山間の開拓村のありし跡黄彩に染めて母子草咲く

この歌もまた素直で好感が持てる。黄彩は黄色がいい。

宗像市 田野 森 甲子

去年蒔きし金魚草の花咲き満ちて心潤ふ朝のひと時

小さい労働に天は大きい喜びを与え給う。下句は「花みな咲きて朝のひと時心潤ふ」の方が、よろこびにひろがりが出る。

宗像市 大島 杉田 禮子

復興を誓いて御陣所太鼓うつ街の心の画面にあふる

能登のどこかの街のことか、「街の心」は一寸無理な用法。「人のこころ」でいいと思う。

宗像市 ひかりヶ丘 清水 亜矢子

五月晴れ心の闇を吹き飛ばす空を見上げて一歩ふみだす

挫折も力として常に前進をする若い人らしく、すがすがしい一首。初句切れとなっているので三句切れでなく、「飛ばし」と連用形がいい。

いづこをば旅せし人や大き荷と

麦藁帽持ち春の駅ゆく

眠るだけ眠らせてくれるゆゑにゆく

線路を一つ超えし理髪屋

明けぐれの青葉のかげに鳴りいでし

木魚のひびき吾が魂をうつ



# 第五二六回 俳句作品集

宗像市 日の里 花田いつ枝  
農道もみなアスファルト夏兆す

## 編集後記

付、久しぶりに愚息ネタです。現在1歳6ヶ月ですが、いよいよ彼も保育園に通うこととなりました。が、初日で風邪をもらってしまいました。当初は愛妻に仕事を休んでもらうていましたが、肺炎ということが判明し長引く見込みが出てきた為、小生も神社から急遽休みをいただき看病しました。今まで長くで半日だった愚息と二人だけで過ごす時間が、日中いっぱいまで延長となり、妙な緊張感と不安がありました。毎日3時間の点滴に、食事、おむつ替え、覆かせる等々、育児の大変さを身をもって感じました。もし、これが延々と続くとなると・・・現在はお互いいづばいづばいながら、何とか軌道に乗ってきました。どちらかの両親が近くに来てくれたらとか、母子・父子家庭の方はもっと大変なんだろうなとか、いろいろ考えてしまいますが充実していると解釈しています。嫌々血洗いをさせられているその横で、愚息のウンチしたおむつを微笑みながら換える愛妻をみています。母親の子供に対する愛情とその絆を見せつけられているように、当大社も含め女性の御祭神が祀られている神社が多いことも納得してしまいます。母は強し、女性性は偉大です。(M.O)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 葦津幹之  
編集人 大塚宗延  
制作 セネラルアサヒ  
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円